

あいち森と緑づくり事業計画の概要

○ 計画策定の趣旨

森と緑の有する公益的機能に対する県民の高い期待に対応するため、平成 21 年度から 10 年計画で「あいち森と緑づくり事業」を実施し、計画通りの成果を上げてきた。

しかしながら、手入れの必要な森林が多く残っていることや、都市の緑の減少が続いていること、高齢化した森林の若返りなど新たな課題に対応するため、事業を継続する。

計画期間は、平成 31 (2019) 年度～平成 40 年度 (2028) 年度の 10 年間とし、5 年目(平成 35 年度)に事業評価を行い、事業内容を検証する。

○ 森と緑を取り巻く現状と課題

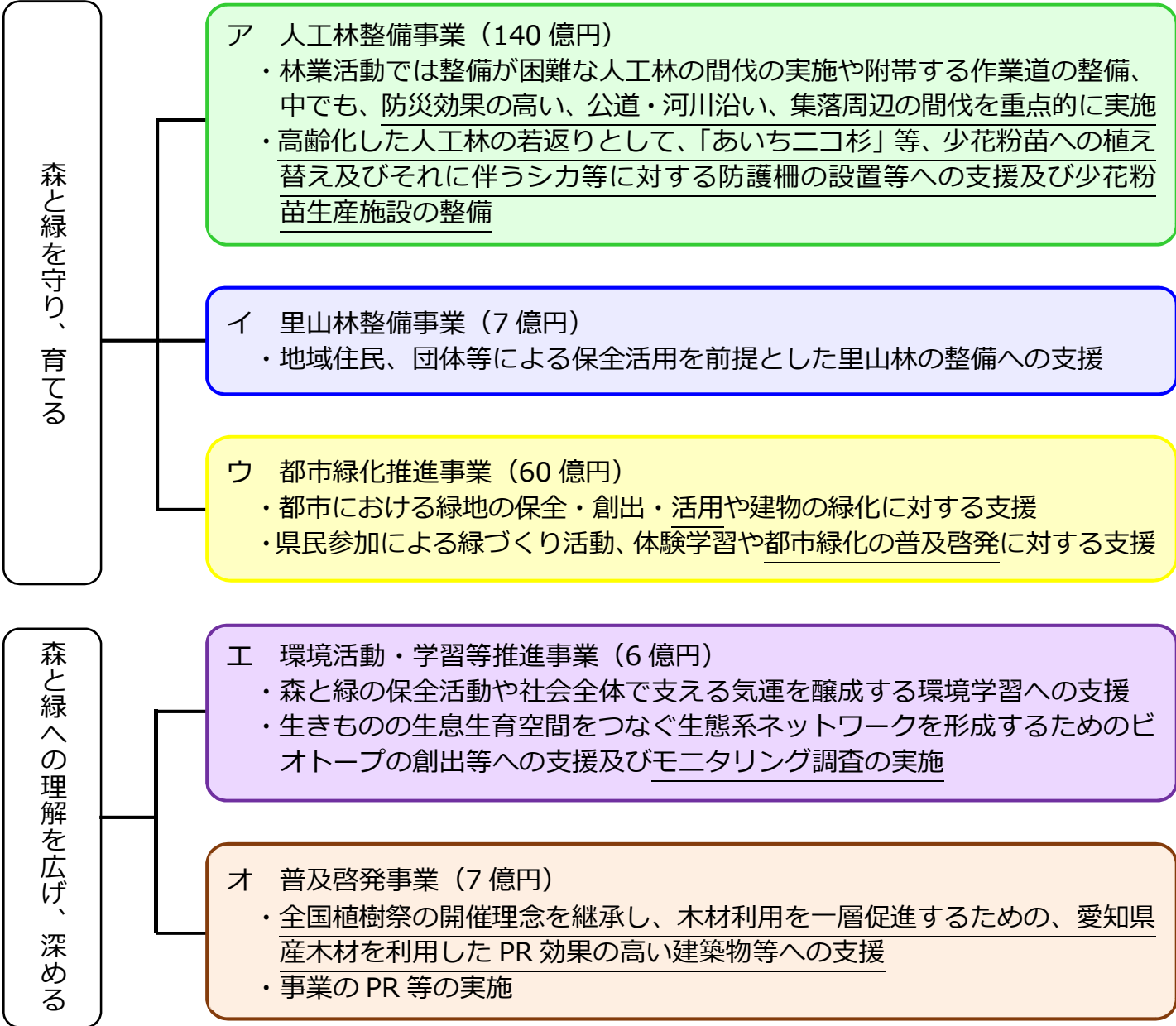
- 【森林】**
- ・ 県内の間伐が必要なスギ、ヒノキ人工林は依然多く、引き続き間伐の推進が必要。
 - ・ 減災対策や資源の有効活用のため、間伐材の搬出が必要。
 - ・ 県内のスギ、ヒノキ人工林のうち 40%が 61 年生以上で、森林の若返りが必要。
 - ・ 少花粉苗への植え替えや獣害対策の推進が必要。
 - ・ 放置された里山林の保全を進めるため、県民や地域の多様なニーズを捉え、県民協働の取組の促進が必要。
 - ・ 多くの県民が里山林の保全活動に参加する仕組みづくりのため、指導者の育成が必要。
 - ・ 本県で開催される第 70 回全国植樹祭の開催理念を継承し、木材利用の一層の促進が必要。
- 【都市の緑】**
- ・ 都市の緑が年々減少していることから、緑を保全し、増やしていくことが必要。
 - ・ 県民の都市の緑に対する理解、意識の向上を図ることが必要。
- 【県民の意識・活動】**
- ・ 多くの県民に森と緑の活動への参加を促し、実践につなげるため、地域団体や NPO 等への支援が必要。

○ 施策体系と事業内容

(総事業費 220 億円)

(下線部は新たな取り組み)

() 内は 10 年間の事業費



○ 事業の効果的な推進

あいち森と緑づくり基金の適切な運用を図り、事業を効果的に推進するため、有識者で構成する「あいち森と緑づくり委員会」を設置し、事業の計画、進捗及び実績の評価等について意見を聴取する。